

生成AIによる 多文化多言語の子どもの教育支援

弊社取り組みのご紹介

富士通Japan株式会社

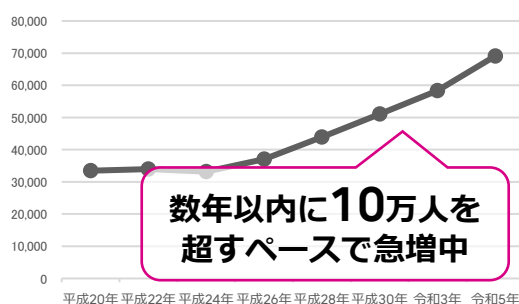
多文化多言語の子どもの現状

多文化多言語の子どもとは？

外国にルーツを持つ子どもなど、**複数の文化や言語的な背景**をもつ子どもたちです。
外国人労働者の増加等に伴い、多文化多言語の子どもたちも更なる増加が予想されています。
その中で、以下のような子どもたちを「**日本語指導が必要な児童生徒**」と呼びます。

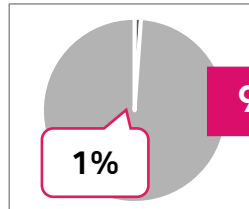
- ・ **日本語で日常会話が十分にできない児童生徒**
- ・ 日常会話ができてても学年相当の**学習言語が不足し、学習活動への参加に支障**が生じている児童生徒

日本語指導が必要な児童生徒数

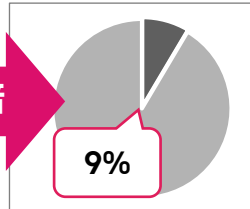


高校中途退学率

全国の高校生



日本語指導が
必要な高校生



9倍

令和5年度 日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査結果の概要 を元に作成

高校における**中途退学率が高い等**の顕在化している課題も多く、
小中高における適切な教育環境の整備が急務となっています。

しかし・・・

教員の課題感

日本語教育の専門性がない！

国語と日本語は全くの別物。
教えるべきポイントが分からない。



日本語力か発達面か、
適切な支援の見極めが難しい！

保護者との**意思疎通**が難しい！

日々子どもと向き合う教員を支える必要がある

教員を支える解決アプローチ

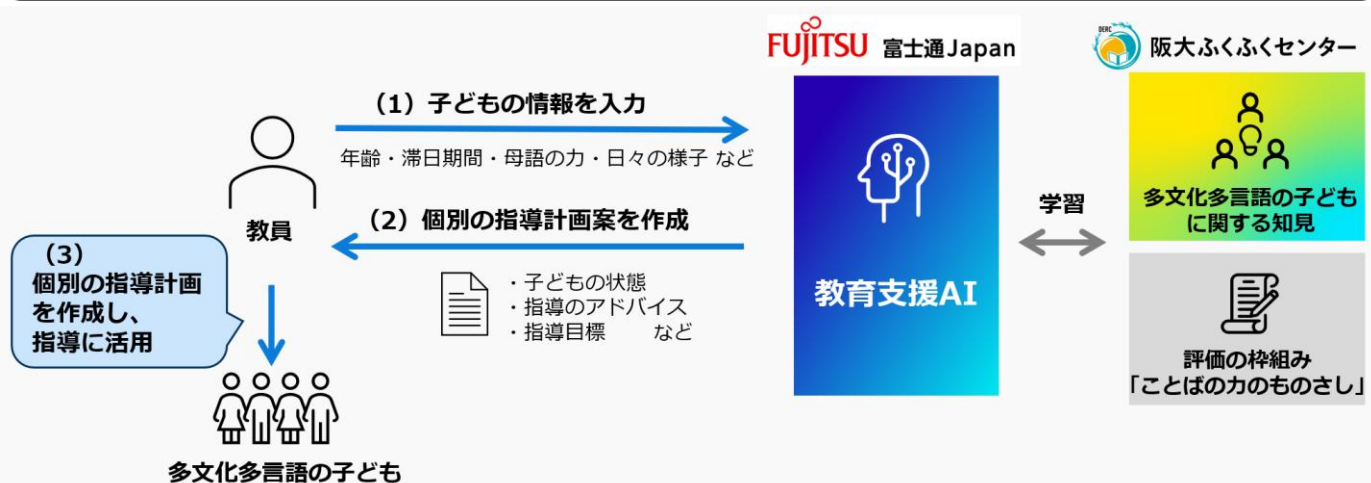
弊社の取り組み

多文化多言語の子ども一人ひとりに**適切な教育を実現**するため、弊社は、大阪大学大学院人文学研究科附属複言語・複文化共存社会研究センター（以下、阪大ふくふくセンター）様と、**小中高生の個別の指導計画の作成支援における生成AI活用**に関する共同研究を実施しています。

阪大ふくふくセンター様の専門知見等を学習したAIを開発し、2028年3月までのサービス提供を目指しています。

個々の能力や文化的・言語的背景を把握し、最適な指導が実現できるように、**教育現場で奮闘する教員の皆様を支える**ことで、**多文化多言語の子どもたちの可能性を拓ける**ことに貢献していきます。

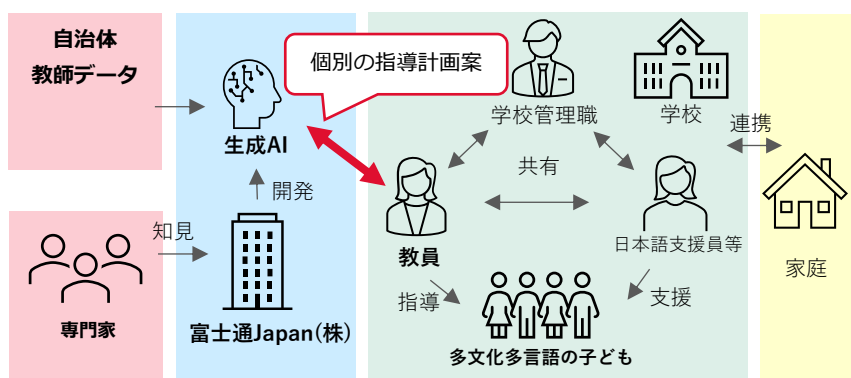
共同研究と開発イメージ



取り組みの流れ

- Step 1**
 - データ分析と課題の抽出
 - 必要技術の検討
- Step 2**
 - プロトタイプの開発
 - 実証
- Step 3**
 - サービス化
 - ブラッシュアップ

ステークホルダーを含む全体像



共同研究詳細はプレスリリースをご覧ください。

<https://www.fujitsu.com/jp/group/fjj/documents/about/resources/press-releases/2025/0630-01.pdf>



2025年7月版

お問い合わせ先

富士通Japanお客様総合センター

0120-835-554 受付時間 9:00~12:00、13:00~17:30
(土日祝日・富士通Japan指定の休業日を除く)

富士通Japan株式会社
〒212-0014

神奈川県川崎市幸区大宮町1-5 (JR川崎タワー)